

1. 活動名

指絵の具で遊ぼう

2. 子どもの姿と読み取り

- ・毎日のルーティンワークを保育者に手伝ってもらいながら自分でしようしたり、身支度を終えると自分でしたい遊びを見つけて遊び出そうしたり、片付けを終えると自分から保育室に戻ってきたりする姿が増えてきており、園生活に徐々に慣れ、園生活の流れをわかって過ごすことができるようになってきている。園生活の流れがわかることが、安心感や気持ちの安定につながっている。
- ・保育者に自分の欲しい遊具や用具を伝えたり、一緒に遊ぼうと誘ったり、困ったことや嬉しいことを表したりする姿が多く見られるようになってきた。自分の思いを出してそれを保育者が受け止めてくれたり、共感してくれたりする経験を重ねることで、保育者への信頼感をもち、保育者に見てもらいたい、わかってもらいたい、知ってもらいたいという気持ちが大きくなってきている。
- ・安心して園で過ごしたり、自分の思いを存分に表して遊んだり生活したりすることができる子どもが増えてきているが、クラスの中には、まだ自分の思いを十分に出せずにいる子どもや、安心して自分のしたいことを見つけて遊びだせずにいる子ども、登園時は特に表情が硬く緊張している様子の子どもの子どももいる。園で過ごすことに対する不安感は減ってはきているものの、思いをだすことへの抵抗感はある、遊んでいるうちに徐々に表情がほぐれてくることが多い。
- ・足こぎ車、三輪車、キックバイク、リアカーなどの乗り物で遊ぶことが好きな子どもが多く、自分の使いたい乗り物を探して乗ったり、運転したりすることを楽しんでいる。足こぎ車で森の山を滑り降りたり、乗り物で坂道をくだってスピードを出したり、自分の足でブレーキをかけたり、自分の思い通りにスピードを出したり止まったりと、それぞれの子どもが自分なりに面白いと感じることを見つけて楽しんでいる。
- ・クラスの友達と集まって同じ場で過ごすことを楽しめる子どもが多く、歌を歌ったり、名前を呼ばれて返事をしたり、手遊びや体操をしたりすることを楽しむ姿が多く見られ、クラスの友達の中で過ごすことの心地よさや楽しさを感じられるようになってきている。また自分の知らない歌や体操、経験のない活動にも興味や関心をもって取り組もうとすることができる。
- ・絵を描いたり、音楽や声に合わせて体を動かしたり、体操を踊ったりなど表現することを楽しんでいる。自分の感じたことを存分に表したり、思いのままに表現したりすることを楽しんでいる子どもの雰囲気が周りの子どもにも伝わり、クラス全体が楽しい雰囲気になる。1学期には泡や水、砂や土の感触を手や足、時には全身で味わいながら楽しんだ。描く活動には消極的な子どももいるが、身近な素材を使ってスタンプをしたり、様々な色の絵の具で画用紙に、“星”に見立ててタンポを使って描く活動を行った際には、スタンプを押すことや形がきれいにつくこと、タンポを押したり滑らせたりすることや色がつくことを、どの子どもも自分なりに楽しんだ。

3. 目指す子どもの姿

- 興味や関心をもって、用具や遊具を使ったり、経験のないことに取り組んだりするようになる。
- 自分の思ったことや考えたことを表そうとするようになる。
- 自分の思いを存分に出して、安定した気持ちで過ごすことができるようになる。

4. 活動の目標(ねらい)

- 絵の具の感触や色彩を味わいながら、指や手で思うままにのびのびと描こうとする。

5. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① 絵の具の感触を味わう。 ② 指や手を使って描く。	① 指や手に絵の具をつけて思うままに描こうとする。 ② 感じたことや思ったことを自分なりに表情や行動、体、言葉などで表す。 ③ 自分の使いたい色の絵の具を使ったり、保育者に伝えようとしていたりする。	① 描くこと（表現すること）を楽しんでいる。 ② 保育者に受け止めてもらう心地よさを感じている。

6. 環境構成

○活動内容の設定理由

1学期の生活において保育者との関係の中で、幼稚園の中で、あるいはいちご組の中で、安心して自分を出すことができる子どもたちが増えてきた。しかしまだ十分には自分の思いを出すことができている子どももいる。長期休暇を経て、2学期の生活が始まる時に、指絵の具の感触を楽しんだり、思い通りに描いたりする中で、気持ちがほぐれ、自分の思いを出して絵の具で遊ぶこと、描くことを楽しむことで、気持ちが安定することにつながるのではないかと考えた。

○教材について

・指絵の具について

1学期には身近な道具を使ってスタンプングをして遊んだり、絵の具といろいろな大きさのタンポを使って押ししたり滑らせたりして描いたりする経験をしてきた。絵の具を使う楽しさを感じている様子であった。そこで指や手で直接絵の具に触れ、その感触を味わうことで、気持ちを開放し、表現することを楽しめるのではないかと考えた。

・絵の具遊びをする台について

机の天板を透明ビニールで覆ったものを3台用意する。ビニール素材の上に絵の具をのせることで、絵の具の感触を長い時間、十分に味わうことができるようにする。描いたり消したりと、繰り返し楽しむことができることで、思う存分じっくりと遊ぶことができるようにする。

○展開の工夫

・初めは単色で遊ぶことで、絵の具の感触を感じることに気持ちを向け、十分に味わうことができるようにする。色は、赤色にする。いちご組のクラスカラーということで、子どもたちにとって親しみのある色であり、また明るくはっきりとした色なので、ビニールに描いた際にも線や指の跡がわかりやすく、描くことの面白さが感じられると考えた。

・単色で絵の具の感触を味わうことができたところで、他の色の絵の具を追加する。自分で好きな色の絵の具を選ぶことで、自分で考え、決めることの楽しさを経験できるようにする。自分で決めたものを使って描き、それを保育者に認めてもらうことで、喜びや楽しさを感じられるようにする。保育者との信頼関係につながったり、自信につながったりするようにする。

7. ESD との関連

○活動を通して養いたい ESD の視点

多様性

絵の具への触れ方、描き方、感じ方、その表し方は人それぞれであり、様々な表現がある。

責任性

自分なりにやってみる。

連携性

人が楽しんでいる様子に影響を受けて、自分も取り組んでみようとする。

○活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

進んで参加しようとする態度

経験のないことにも興味や関心をもって、やってみようとする。自分なりに楽しさを見つけ、すすんで取り組もうとする。

○ESD で育てたい価値観

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する

自分の感じたまま、思いのまま表現することが楽しい。自分を表現できる場、人間関係を築くことの心地よさを感じる。

○貢献できる SDGs

目標4【教育】

7.展開

予想される子どもの活動	保育者の環境構成と援助
○保育者の話をきく	▲絵の具を出したり、実際に触れたりするタイミングや方法を工夫し、子どもたちの期待を高め、経験したことのない活動もやってみようと思えるようにする。
○赤い絵の具を見る	▲一人一人が楽しんでいることを見取り、保育者も一緒に楽しんだり、気持ちを共有したりすることで、子どもが自分の気持ちを受け止めてもらえたと感じられるようにする。
○指や手を使って描く	▲戸惑ったり、不安そうな様子の子どものには気持ちを受け止めたり寄り添ったりすることで、安心感につながるようにする。
○黄色や白色の絵の具を混ぜて描く	▲保育者も一緒に絵の具の感触を味わい、描きながら楽しい雰囲気を作ることで、どの子も楽しい気持ちで活動できるようにする。 ◆一人一人が絵の具の感触を味わい、存分に楽しめているかを確認しながら絵の具の量を調節する。

◎実際の子どもの姿



初めは絵の具に引き付けられた子どもたちが指を使って、絵の具に触れ、色を引き伸ばして遊び始めた。

一度絵の具に触れると、あっという間に大胆に手の平全体で触れて楽しむ姿が見られた。手の平で円を描いたり、上下左右にスライドさせたり、手の上で絵の具をにぎったり手の力を緩めたり、指で線を描いたりなど、思い思いに絵の具に触れ遊んだ。

自分の手や描いたところを「先生、みて」と見せたり、自分なりに表情や言葉でその時の驚きや面白さや感動を伝えたりしようとする姿が見られた。

近くの友達がしている手の動きを真似したり、自分が描いた線の上を友達が触れると線の形が変わったり、線が途切れたりすることに面白さを感じ、何度も繰り返しやってみる姿も見られた。



【個人の変容に視点をあてて振り返る】

A 児 A 児は入園当初不安感が強く、保育者と常に一緒にいたい、体に触れておいてほしいと泣くことが多かったが、保育者との信頼関係を土台に少しずつ安心して過ごすことができるようになった。経験が少なく、園で初めて経験することも多く、遊びでも生活の中でもクラスでの活動でも友達の様子を見たり、真似たりすることが多い。



指絵の具は、夢中になり始めると、周りの様子に関係なく、手を動かして感触を楽しんだ。また指で線を描いたり、じっと自分の手元をみながら手を動かしたりと、自分なりに次々と考えてやってみながら遊びに没頭する様子が見られた。

集中して思うままに手指を動かし、没頭して楽しんだ後、最後に保育者の顔を見て満面の笑みを浮かべた。

最近の A 児の様子



友達の様子を見たり、真似て同じように行動したりすることもあるが、表情が豊かになり、声が大きくなり、よく保育者にも友達にも話しかけるようになってきた。登園時の保護者との分離もスムーズになり、保護者とホールで離れて、自分一人で保育室まで歩いて登園するようになった。1 学期にはトイレに行くときに必ず保育者が付き添うことを求めたが、2 学期後半には友達がいれば、保育者の付き添いなしで行くことができたり、場合によっては自分で行くことができたりする。土山から走り降りることを楽しんだり、友達の様子をみて、同じように鉄棒で遊んだりなど、ダイナミックに体を動かす姿もみられるようになってきている。

B児

B児は園で遊び出すまでに時間がかかった。入園当初は保育室に近づくことや、遊ぶことができずに、正門付近のベンチに座り、運動場で遊んでいる年長や年中、年少の友達の様子を見ていた。園での生活の流れがわかってきて、保育者との信頼関係が少しずつできてくると、自分が好きなことをきっかけに正門付近で遊び出し始め、次第に保育室やその付近でも遊ぶ姿が見られるようになった。



絵の具をチューブから自分で出してみたいな

最近のB児の様子



登園時、保護者と離れて朝の準備をすることがスムーズになった。朝の準備を終えると、自分のしたい遊びや、友達のいる場に自ら行き、遊び始める。友達と同じ場で遊ぶことが心地よく、友達と同じ言葉を繰り返したり、同じ動きをしたり、笑いあったりすることがとても楽しい様子である。表情がほぐれ、様々な遊びや活動に自ら参加し、楽しめるようになってきている。